

# 子ども主体の楽しい保育を目指して ～気づき・考える力を大切に～



埼玉県保育士会 会長  
わか もり きよ み  
**若盛 清美さん**

幼保連携型認定こども園こどものもり副園長。  
2007年から埼玉県保育士会会長、2013年全国保育士会関東ブロック常任委員に就任。

埼玉県保育士会会長で、「幼保連携型認定こども園こどものもり(松伏町)」副園長の若盛清美さん。約半世紀にわたり保育現場を見つめてきた若盛さんに、保育の現状や大切にしている思いを伺いました。

「長年、保育に携わる中で、保育の現場はどのように変化していますか。」

昔と同じ関わり方では済まない場面が多くあります。一人っ子の場合、お母さんが身の回りのことを全部やってくれたり、世の中が便利になったからでしょうか。例えば、着替えの時など、ただ立って誰かが着替えさせてくれると思ったり、どこの蛇口でも手を出せば自動で水が出ると思っている子がいます。その子に「手を出さなければ水は出ないよ」と言うだけでは分りません。「一緒にやりながら」「こうやって出てくるね」と洗いや着替えを伝えています。だからといって「こうでなければならぬ」とか「こうでなさい」という言い方ではなく、子どもたちが自ら気づき、自分でやろうとする気持ちを持てるように心掛けています。

「子育てを取り巻く環境も変化しているのではないのでしょうか。」

仕事が忙しくて子どもとゆっくりに関われないお母さんが増えていきます。お母さんたちの子育てに対する考え方も変化し、中には一歩引いて子どもを見て、という方もいます。一歩引いて子どもを見ることもいいけれど、まずは子どもを可愛いと思っどぎゅっと抱きしめ、無条件に大好きという思いになつてもいいと思います。そして、好きという思いから「何でも好きにやってみよう。全て許すわ」となってしまうのではなく、「この部分はきちんとしてほしい」とい

う思いも併せ持つてほしいと思います。最近では保育参観でなく保育参加として、一日保育士体験などの取り組みを行っている園が増えていきます。保護者に言葉で「こうしてください」と伝えても、実際のやり方が分からない方もいます。子どもへの言葉のかけ方にしても、「ダメ」といった否定的な言葉ではなく、子どもがやる気になる言葉をかけてあげるなど、直接保育者と子どもとの関わりを見聞きし、体験してもらおうことで、家でも実践したいと思つていただければ嬉しいですね。保育者が一歩上に

立つて言うのではなく、保護者が自ら感じてもらう場を用意していくことが大事だと思います。保育士の資格を取得しても他の仕事に就く方や、早期離職してしまう方などの課題がありますが、どのように感じていますか。

大学で講師をしていた時に、学生に保育学科を選んだ理由を聞くと、多くの学生は「子どもの時に身近にいた保育園の先生がとても優しく接してくれた。自分もああいう先生になりたいから」と答えてくれました。せつかく思いがあつて保育士の資格を取つたのなら、ぜひ現場に出てほしいと思います。原点の思いをもう一度振り返つて、自分もそういう先生になるためにどうしたらいいかと考え、経験することで、保育に関わる自分自身も見えてきます。

子ども一人一人の間で、ただ頭が良くてピアノが上手なだけでは子どもと向き合うことはできません。自分を中心として子どものクラスを見ればよかつたのに、子どもが色々な所に行くから、どこを見たらいいのか分からな

私たちの園では、実習生にも帰りのミーティングに出してもらっています。保育をしている時だけが保育者ではなく、準備や掃除なども大切なことです。振り返りでは、一人の子について、本人や保護者にどう対応しようかといった深刻な話も出てきます。それも受け止めて、感じてもらう場を持ち、園の中のとてつ知らずのことが大切だと考えます。

難しいことから入るのではなく、まずは職員同士が、一緒に保育をしていく仲間という意識を持つことが大切だと考えています。仲間という思いは言葉で言つて身につくものではなく、経験を通じて感じていくものです。職員同士で毎月誕生日のお祝いをするなどの交流を通じて、絆を深めています。

子ども一人一人の間で、ただ頭が良くてピアノが上手なだけでは子どもと向き合うことはできません。自分を中心として子どものクラスを見ればよかつたのに、子どもが色々な所に行くから、どこを見たらいいのか分からな

また、朝礼で子育ての本の読み合わせをしています。職員に読みたい箇所を自由に読んでもらうのですが、その際に日々の実践を振り返りながら感じたことを話し合います。毎日違う人が読むので、同じ箇所でも人によって感じる



豊かな自然に囲まれた園内。

私が言葉で言うより、自分で感じて、考えていく。子どもも同じですが、ただ上の者が「こうしなければならぬ」と言うのではなく、一人一人が気づきを持つ機会を作り、自分で考えていく力がつけられていくことが大事だと思います。

「さまざまな取り組みの中で、印象に残っていることはありますか。」

子どもたちが園で仲良く同じように育ち、同じような思いで卒園してほしいと考え、クラス制をやめて、仕切りを取り外したことがあります。当初はすごい混乱がありました。壁が無くなったことで、子どもは広くなった園内を動き回

ります。先生たちから「これでもとても保育できない」と言われま

職員が「もう無理」と言った時に「じゃあ、やめよう」と言ってしまうと話し合せて、子どもがより生活しやすい場にするためにはどうしたらいいか考える。私たちがやってきたことは、他の園を見学してお手本を取り入れたのではなく、その時々の子どもの姿を見ながらこうしたらどうかとみんなが提案して形にできたものです。それで上手いかなかつたらまた考えて、その繰り返しの中で今

「最後に保育の現場で働いている方や保育の仕事を目指す方に改めてメッセージをお願いします。」

私にとって保育の魅力ややりがいは、子どもの成長を感じられることです。最初はハイハイもできなかった赤ちゃんが、卒園する時には立派な姿になっている。この子が将来どんな大人になっていくのか楽しみもできます。私たちの園では卒園する際、実のなる記念樹を渡して、家で育ててもらっています。数年後「実がなり園での生活を思い出しながら美味しく食べました」といった報告を頂くと胸に迫るものがあります。自分の子どもでなくても、最後は本当に自分の子どものように感じられるのです。だからこそ、園にいる時間を大事にしてあげたいと思います。

現場で働いている方には、毎日の子どもとの生活が楽しいという思いを持ってほしいですね。保育者が使命や仕事と思つてやるだけでは子どもに伝わらないので、私も楽しんでほしいと思います。これから保育の仕事を目指す方には、自分が保育者になりたいと思つた原点を忘れずに、自分に一番合う保育の場を探して、長く続けてい

介護用品販売  
レンタルサービス・ふあいん  
手すり1本からお取り付けします。  
介護保険対応のカタログをお送りします。  
「10月1日」は福祉用具の日です。  
Silver  
**HOXON シルバーホクソン**  
〒332-0032 川口市中青木2-22-34  
フリーダイヤル 0120-65-4649  
介護保険指定事業者番号1170200222

福祉用具貸与・販売 / 住宅改修  
訪問介護サービス  
福祉のニツカ  
専門相談員が心のこもった相談に応じます  
介護保険事業所番号 1171200213  
0120-002940  
三郷営業所 / 三郷市早稲田3-8-1  
流山営業所 / 流山市平和台3-2-41  
葛飾営業所 / 葛飾区亀有4-25-8  
洗淨消毒センター / 三郷市早稲田8-25-6  
産成ヘルパーステーション / 三郷市産成3-7-12-101  
産成介護相談室 / 三郷市産成3-7-12-101  
早稲田介護相談室 / 三郷市早稲田3-8-1  
本社 / 三郷市早稲田3-16-5